

平成 30 年 12 月 1 日に思う

さまざまな意味で“環境”のことがよりいっそう気になった 1 年でした。

真夏を彷彿させる 7 月の酷暑や、東から上陸する台風があるなど、“自然環境”はさらに想定外なものになりました。

一方、多くの市町村が地域の存続をかけて地方創生に必死で取り組んでいる中で、新たな自治体のあり方として「圏域行政」の導入を議論する会合が開かれるなど、“自治体を取りまく環境”も穏やかではなかったと思います。

そんな中、先月 11 日に田野瀬太道衆議院議員の計らいにより、「森林・林業の実態と頻発する山腹崩壊との関係」について、大阪本社の記者たちと吉野郡内の町村長との意見交換会が行われました。

会議では、「国土保全にかかる山林の大きな役割」や「木材需要が山林を支えること」、「昨今の異常気象による山腹崩壊の発生頻度が、治山事業や復旧作業のそれをはるかに上回っていること」等々数多くの意見が出されました。

残念ながら、都市部<sup>まち</sup>の目線には田舎の実態や山林の危機<sup>まち</sup>が見えづらいのが確かです。今回、都市部<sup>まち</sup>を基軸に取材活動を行っている記者の方たちに、これらの現実を伝えられたことは大きな意義があったと思います。それを受けての彼らによる“良き発信”をおおいに期待しています。